

赤い羽根共同募金の普及に関する調査と 寄付付き商品の開発



本学学生によるボーイスカウトへの福祉教育の一環



DATA

● 主な連携先・メンバー

福田公教（関西大学人間健康学部准教授）／西川知亨（関西大学人間健康学部准教授）／堺地区共同募金会（事務局：堺市社会福祉協議会）／野村尚克（Cause-brand Lab.代表）

● 活動地域

大阪府堺市／山口県山口市・防府市ほか

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業／科学研究費

活動の目的

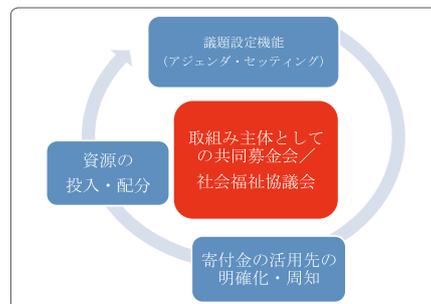
- 1 赤い羽根共同募金および寄付付き商品に関する調査と周知・展開
- 2 街頭募金およびボーイスカウトへの募金説明などを通じた福祉教育の可能性の追求

連携にいたる経緯

福田は子ども家庭福祉論が専門で、西川は子ども福祉社会学に関心を寄せている。福祉領域、とくに児童福祉分野において福祉を推進していくための資金・資源が不足しがちである現状を踏まえ、現代に見合ったよりよい社会福祉の推進と実践に向けて、社会福祉学と社会学、地域福祉と新しいソーシャルビジネスの融合をめざして、連携が成立した。

活動内容

- (1) 堺市における赤い羽根共同募金に関するアンケート調査
- (2) 寄付付き商品の「先進地」である山口県におけるインタビュー調査
- (3) 堺市および周辺地域の企業関係者を集めた、寄付付き商品に関するセミナー・相談会の実施
- (4) 街頭募金への参加およびボーイスカウトへの募金説明を通じた福祉教育の推進



アンケート調査により明らかになった「社会資源の循環」と「寄付金の活用先の周知/福祉的課題の設定」をあらわす図



山口県共同募金会におけるインタビューの様子。寄付付き商品としての弁当についてのインタビュー

活動の成果

- 1 福祉教育の面において、地域福祉の推進にソーシャルビジネスの視点を取り入れるなど、現代社会に見合った福祉マインドの醸成とその方法について、小学生から大学生までの若年世代に伝えることができた
- 2 産業振興の面において、地域貢献を行えるビジネスとして、寄付付き商品という一つの可能性を示すことができた
- 3 福祉施設支援の面において、募金が具体的にどのように活用されているか周知することの福祉的・社会的意義が浮かび上がってきた

● 教員紹介



人間健康学部 准教授
福田 公教 (ふくだ きみのり)

専門は社会福祉学、子ども家庭福祉論。社会的養護の普及・啓発および社会的養護下にある子どもの自立支援のあり方について研究を進めている。妻とともにほぐみホーム（養育里親）をつとめている。



人間健康学部 准教授
西川 知亨 (にしかわ ともゆき)

研究領域は、第1に、シカゴ学派社会学を中心とする社会病理学・社会学史研究。第2に、貧困対抗活動の社会的意義についての研究。第3に、育児経験などに根差した家族福祉に関する社会学的研究。

今後の課題・目標

- 1 寄付付き商品などに関する各地の成功事例を参照しながら、諸学術領域および諸機関と手を組みながら、堺市などの地域に根差した新しい事業および福祉の推進をめざすこと
- 2 本事業の成果に基づき、顕在的および潜在的な福祉的課題への取り組みを通じて、必要とされる領域への資源の配分を目指す「社会資源の循環」と「寄付金の活用先の周知/福祉的課題の設定」についての研究および事業を推進していくこと